

## 2022 年度 富山湾におけるリュウグウノツカイの記録

木村知晴・草間 啓・稲村 修（魚津水族館）

Records of Slender oarfish *Regalecus russelii* in Toyama Bay, Sea of Japan  
(Fiscal year ending March 2023).

Tomoharu KIMURA Satoshi KUSAMA Osamu INAMURA  
Uozu Aquarium

### はじめに

アカマンボウ目リュウグウノツカイ科リュウグウノツカイ属には、リュウグウノツカイ *Regalecus russelii* と *R. glesne* の 2 種が知られている (Roberts, 2012). 両種は、完全な背鰭鰭条数 (リュウグウノツカイは 333-371 vs. *R. glesne* は 414-449), 肛門より前方の背鰭鰭条数 (80 以下 vs. 90-120), 背鰭最初の鰭膜でつながる伸長鰭条数とその直後の鰭膜でつながらない伸長鰭条数 (3-6 と 1 vs. 6-8 と 5-11), および第 1 鰓耙数 (47-60 vs. 33-47) など識別される (Roberts, 2012).

両種の分布域は、リュウグウノツカイは主に太平洋の北部から熱帯水域および大西洋の熱帯海域, *R. glesne* は主に大西洋と南太平洋の高緯度海域であることが知られている (Roberts, 2012). また、リュウグウノツカイの日本近海での分布域は、北海道から九州、沖縄諸島の沿岸とされている (崎山・瀬能, 2012; 林, 2013; 河野ら, 2014; 瀬能, 2018).

これまで富山県沿岸海域におけるリュウグウノツカイの記録は、1962 年と 1982 年に各 1 個体が単発的に確認されており、2009 年からは連続的に 37 個体が確認され、2021 年 3 月までには計 39 個体が記録されている (木村ら, 2022).

今回は、2022 年度 (2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日) において、富山県沿岸海域で新たに確認されたリュウグウノツカイの記録を報告する。

### 富山湾での捕獲記録

富山湾 (富山県沿岸) において、2022 年度に確認されたリュウグウノツカイは計 6 個体であった。それらのうちの 2 個体は魚津水族館に搬入して計測したが、その他の 4 個体は漁業者や一般の方から画像や映像などの情報の提供を受けた。以下に各個体の記録を記す。

#### 個体番号①



(撮影：舩田勝義氏)

捕獲年月日：2022 年 10 月 20 日

捕獲場所：魚津市上口沖約 1 km

捕獲者：魚津水産株式会社

捕獲方法：定置網

全長：約 2.5m（目測）

状態：定置網内では生きており，船上のコンテナに収容された直後に死亡．

備考：JF 魚津の競りにかけられ，魚卸業者が購入した．情報提供のみ．

個体番号②



捕獲年月日：2022 年 11 月 11 日

捕獲場所：富山市水橋沖約 1 km

捕獲者：水橋漁民合同組合

捕獲方法：定置網

全長：3411 mm

状態：早朝，定置網で生きたまま捕獲されてコンテナに収容されるが，同日昼過ぎに死亡．計測および写真撮影は 2023 年 11 月 13 日に実施．胃内容物なし．

個体番号③



（撮影：曾場慎太郎氏）

捕獲年月日：2023 年 1 月 17 日

捕獲場所：氷見市宇波沖約 1 km

捕獲者：宇波浦漁業組合

捕獲方法：定置網

全長：約 3.5m（目測）

状態：定置網内で生きた状態で捕獲された．

備考：その場で放流され，情報提供のみ．

個体番号④



（撮影：曾場慎太郎氏）

捕獲年月日：2023 年 1 月 17 日

捕獲場所：氷見市宇波沖約 1 km

捕獲者：宇波浦漁業組合

捕獲方法：定置網

全長：約 3.5m（目測）

状態：定置網内で生きた状態で捕獲された．

備考：個体番号③と同時に捕獲され，その場で放流された．情報提供のみ．

個体番号⑤



捕獲年月日：2023 年 1 月 20 日  
捕獲場所：氷見市宇波沖約 2 km  
捕獲者：宇波浦漁業組合  
捕獲方法：定置網  
全長：3260 mm  
状態：定置網を揚げた時点ですでに死亡しており、一部が腐敗し始めていた。  
備考：計測および写真撮影は 2023 年 1 月 20 日に実施。胃内容物なし。

形、体表の突起列などからリュウグウノツカイ科リュウグウノツカイ属であると判断されたが、種の同定に必要な背鰭や鰓耙などが欠損していた。しかし *R. glesne* は日本近海には生息していないため (Roberts , 2012)、リュウグウノツカイと判断した。情報提供のみ。

#### 個体番号⑥



(撮影：泉野氏)

確認年月日：2023 年 1 月 30 日  
確認場所：富山市岩瀬古志町 岩瀬浜  
確認者：泉野氏・小山氏  
全長：不明  
状態：死亡しており、砂浜に打ちあがっている状態で発見された。頭部、尾部、各鰭などは欠損しており、胴部のみが残っていた。胴の一部に大きな傷跡があるが、砂浜に打ちあがった後で野鳥につつかれてできた傷と推測される。海で死亡して打ちあがったのか、打ちあげられて死亡したのかは不明。  
備考：残存する胴体部全体の長さは 270 cm であった。本個体は胴体の大きさや

#### 考察・まとめ

富山県沿岸海域で確認されたリュウグウノツカイは、2022 年度に確認された 6 個体を合わせると計 45 個体となった。

富山県沿岸海域における本種の月ごとの確認個体数は、1 月をピークに 11 月から翌年 2 月に多く確認されており (木村ら, 2022)、2022 年度は 10 月下旬に最初の 1 個体が確認されているが、これまでと同様の傾向であった (図 1)。

また、富山県沿岸海域においてリュウグウノツカイが同日に 2 個体確認されたことは、これまでに 2019 年 1 月 19 日と 2019 年 2 月 1 日の 2 回あるが、両日とも確認された場所は別々であった (木村ら, 2020)。しかし、2023 年 1 月 17 日には 2 個体 (個体番号③と④) のリュウグウノツカイが定置網で同時に捕獲された (図 2)。本種の成魚が同時に確認されたのは富山県沿岸海域では初めてのことである。リュウグウノツカイ属の魚は単独で確認されることが多いが、2 m を超える大きなリュウグウノツカイ属の魚はまれにペアで出現することがあり、その二個体は同じか、ほぼ同じサイズになる傾向がある (Roberts , 2012)。これまで静岡県や沖縄県でリュウグウノツカイの成

魚が同時に2個体捕獲されたことがあり、それらはオスとメスのペアであった(塩原, 1991; Oka et al., 2020). 今回の2個体はほとんど同じ大きさの成魚であり、オスとメスのペアであった可能性があるものの、確認できなかったことが残念である。

今後も富山湾を中心に広く情報を集めて解析し、リュウグウノツカイの生態の解明に努めたい。

### 謝辞

捕獲したリュウグウノツカイを提供して頂いた水橋漁民合同組合の皆様、宇波浦漁業組合の皆様、リュウグウノツカイの写真や映像を提供していただいた舩田勝義氏、曾場慎太郎氏、泉野氏に厚く御礼申し上げます。また、魚の運搬や計測を手伝っていただいた魚津水族館職員の皆様に感謝いたします。

### 引用文献

林 公義. 2013. リュウグウノツカイ科解説, 中坊徹次 編. 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. 480. 東海大学出版会, 神奈川.

河野光久・三宅博哉・星野 昇・伊藤欣吾・山中智之・甲本亮太・ 忠鉢孝明・安澤 弥・池田 怜・大慶則之・木下仁徳・児玉晃治・手賀太郎・山崎 淳・森 俊郎・長濱達章・大谷徹也・山田英明・村山達朗・安藤朗彦・甲斐修也・土井啓行・杉山秀樹・飯田新二・ 船木信一 . 2014. 日本海産魚類目録. 山口県水産研究センター研究報告 第11号: 1-30.

木村知晴・草間 啓・不破光大・稲村 修. 2020. 富山湾におけるリュウグウノツカイ

イの記録 (～2019年3月). 魚津水族博物館年報 29号: 38-48.

木村知晴・草間 啓・稲村 修. 2022. 2020年度 富山湾におけるリュウグウノツカイの記録. 魚津水族博物館年報 31号: 24-28.

Oka Shinichiro, Masaru Nakamura, Ryo Nozu and Kei Miyamoto. 2020. First observation of larval oarfish, *Regalecus russelii*, from fertilized eggs through hatching, following artificial insemination in captivity. Zoological Letters 6: 4.

Roberts, T R. 2012. Systematics, biology, and distribution of the species of the oceanic oarfish genus *Regalecus* (Teleostei, Lampridiformes, Regalecidae). Mémoires du Muséum national d'Histoire naturelle, Tome 202. Publications Scientifiques du Muséum, Paris. 268pp.

崎山直夫・瀬能 宏. 2012. 相模湾におけるリュウグウノツカイ (アカマンボウ目リュウグウノツカイ科) の記録について. 神奈川県自然誌資料 (33): 95-101.

瀬能 宏. 2018. アカマンボウ目解説, 中坊徹次 編. 小学館の図鑑 Z 日本魚類館. 524pp. 小学館, 東京.

塩原美敏. 1991. 駿河湾でとれた大きなリュウグウノツカイと小さなリュウグウノツカイ. 魚類学雑誌 38 (1): 86-88.

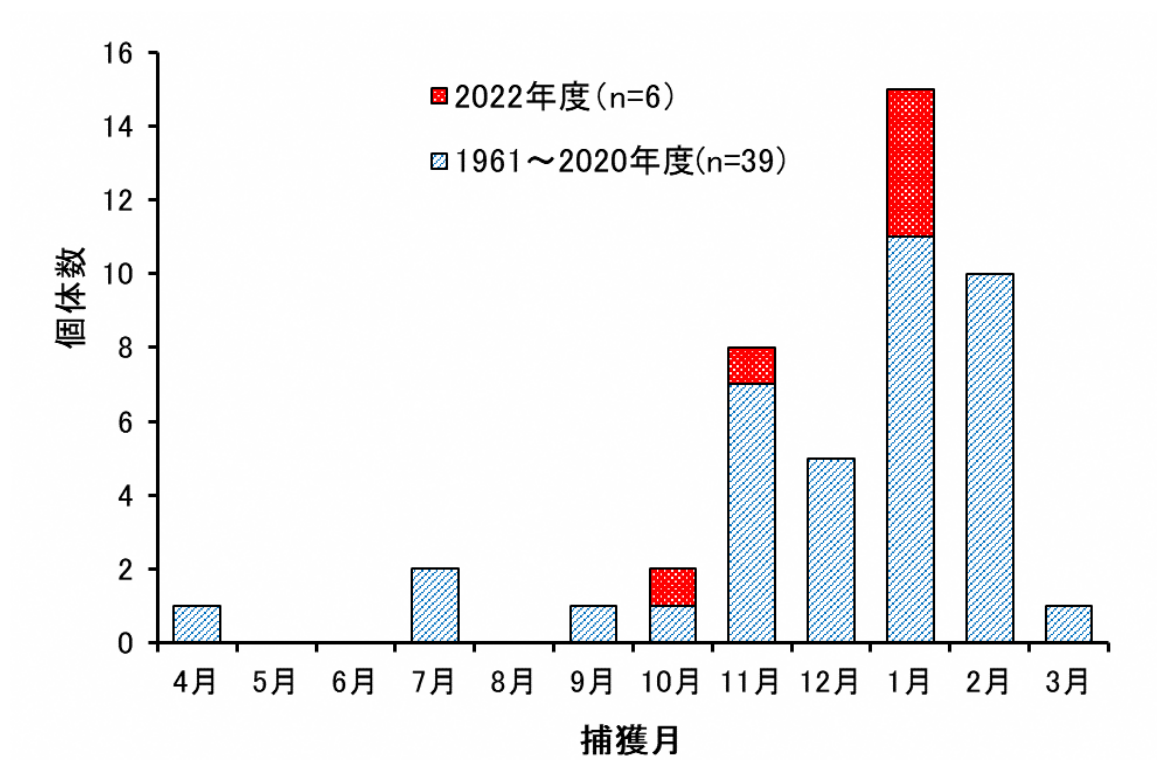


図1 リュウグウノツカイの月別個体数.



図2 2023年1月17日に同時に定置網に入網したリュウグウノツカイ(個体番号③と④).  
(撮影：曾場慎太郎氏)

## **魚津水族博物館年報 第 33 号**

**ANNUAL REPORT OF UOZU AQUARIUM No.33**

2024 年 2 月 編集

### **編集／魚津水族博物館**

〒937-0857 魚津市三ヶ 1390

TEL (0765) 24-4100

FAX (0765) 24-4128

HP <https://uozu-aquarium.jp>

E-mail [suizoku@city.uozu.toyama.jp](mailto:suizoku@city.uozu.toyama.jp)